

実地医家におけるヘリコバクター・ピロリ除菌治療の  
現況  
ーボノプラザン登場後の1次除菌治療についてー

川口メディカルクリニック  
大家昌源

# 日本消化器内視鏡学会 CO I 開示

筆頭発表者名： 大家 昌源

演題発表に関連し、開示すべきCO I 関係にある 企業などはありません。

# 目的

新しい酸分泌抑制薬であるボノプラザンが登場した後の当院でのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の現況を、ボノプラザンを用いたレジメでの有効性、安全性の検証を中心に報告する

# 方法

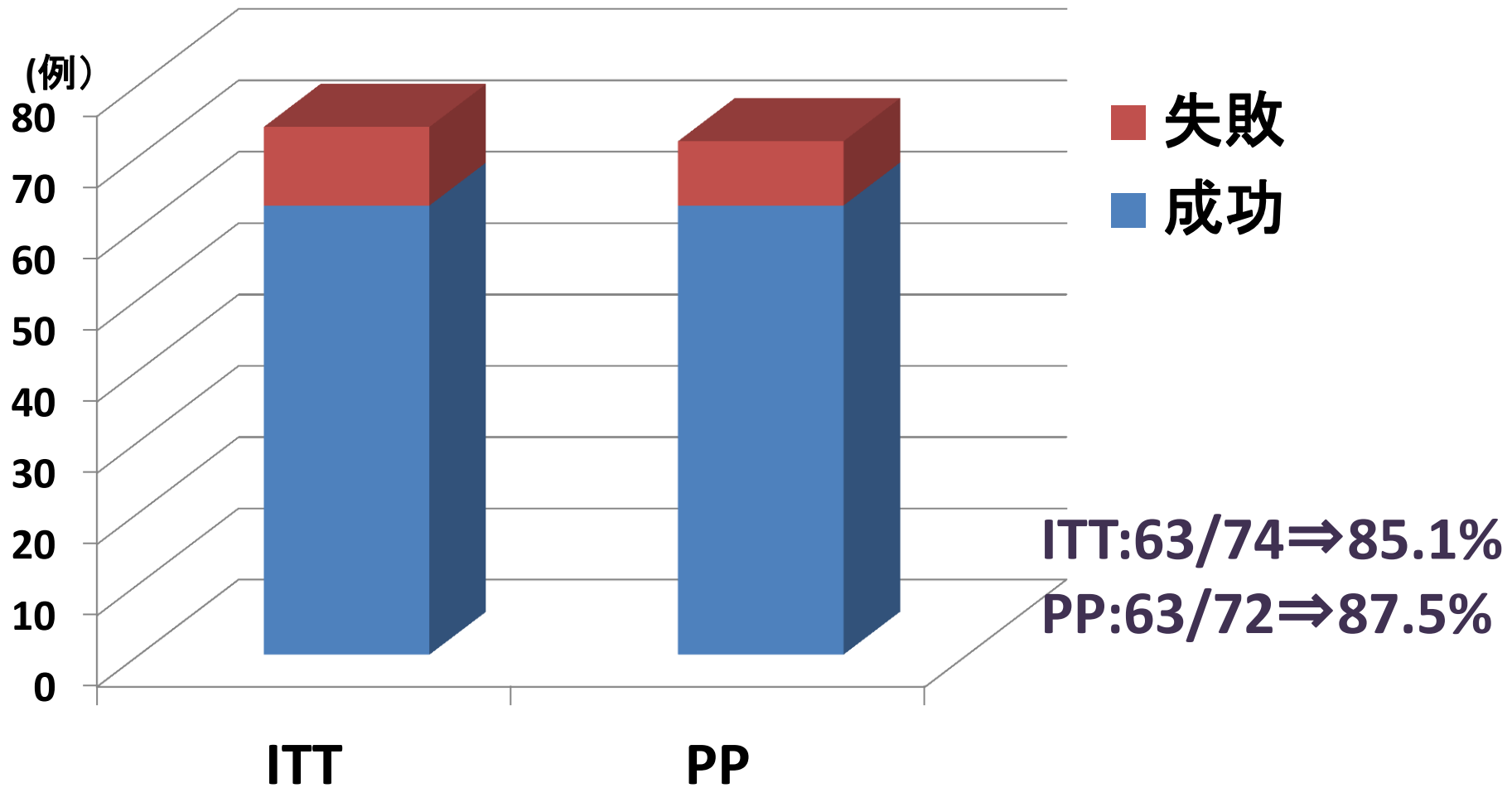
- 対象：  
平成27年3月～8月の間でボノプラザンを用いてヘリコバクター・ピロリ1次除菌を施行した74例、及び平成26年1月～平成27年2月の間で従来のプロトンポンプ阻害薬（以下PPI）を用いて1次除菌治療を施行した208例（エソメプラゾールのレジメ173例、ランソプラゾールのレジメ35例）
- ボノプラザンを用いた1次除菌治療と従来のPPIを用いた1次除菌治療とで除菌率の比較を行った。
- 除菌判定は除菌薬終了約8週後に主に尿素呼気試験一部便中抗原にて行った。
- ボノプラザンを用いて1次除菌治療を施行した57例においてアンケートを行い、有害事象を調査した。

# 対象症例

- ボノプラザンのレジメ症例：  
男性37例、女性37例  
年齢23歳～71歳（平均49歳）
- エソメプラゾールのレジメ症例：  
男性77例 女性96例  
年齢26歳～85歳（平均53.4歳）
- ランソプラゾールのレジメ症例：  
男性16例 女性19例  
年齢23歳～69歳（平均47.2歳）

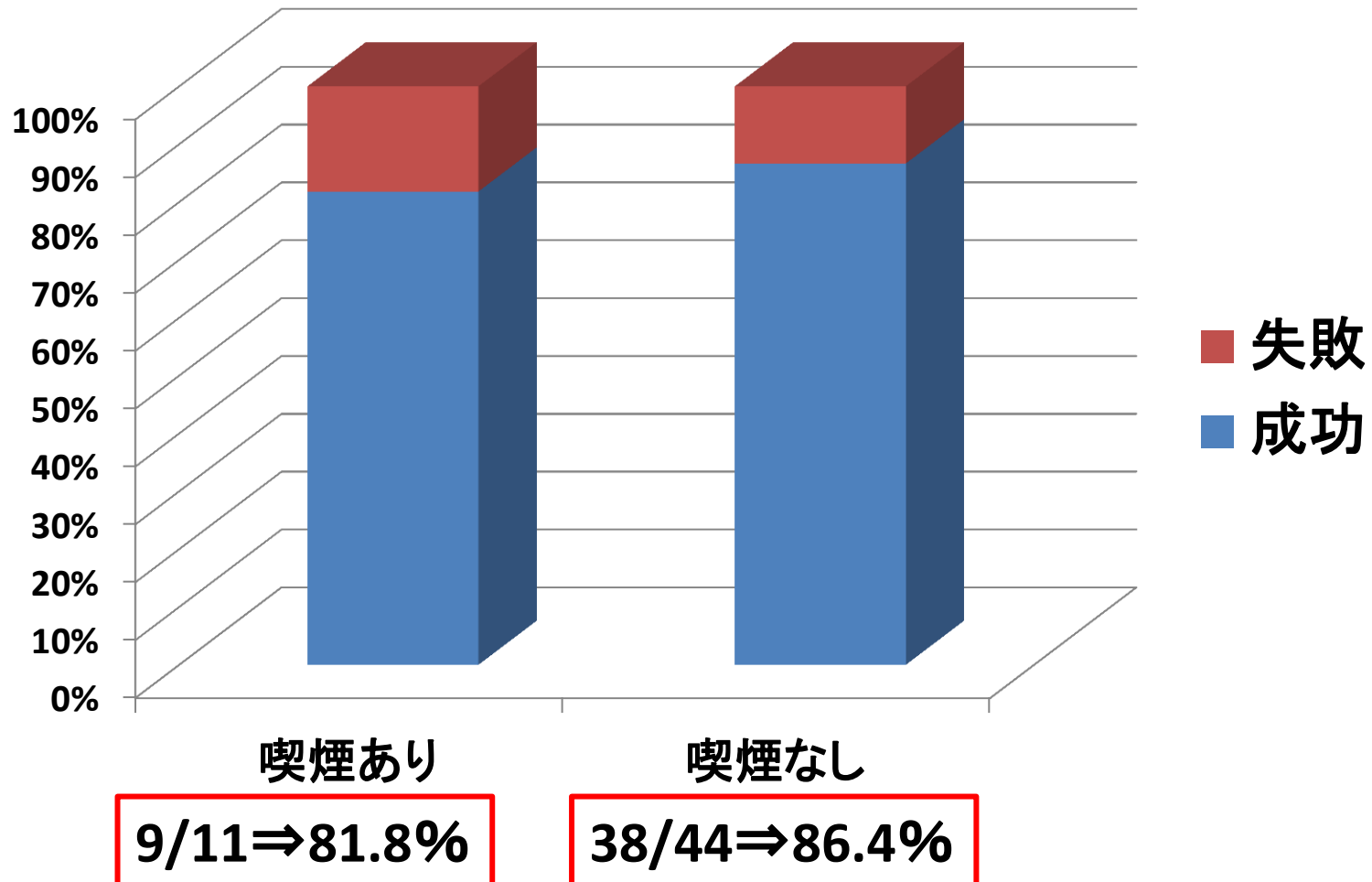
# 結果

## ボノプラザンでの1次除菌



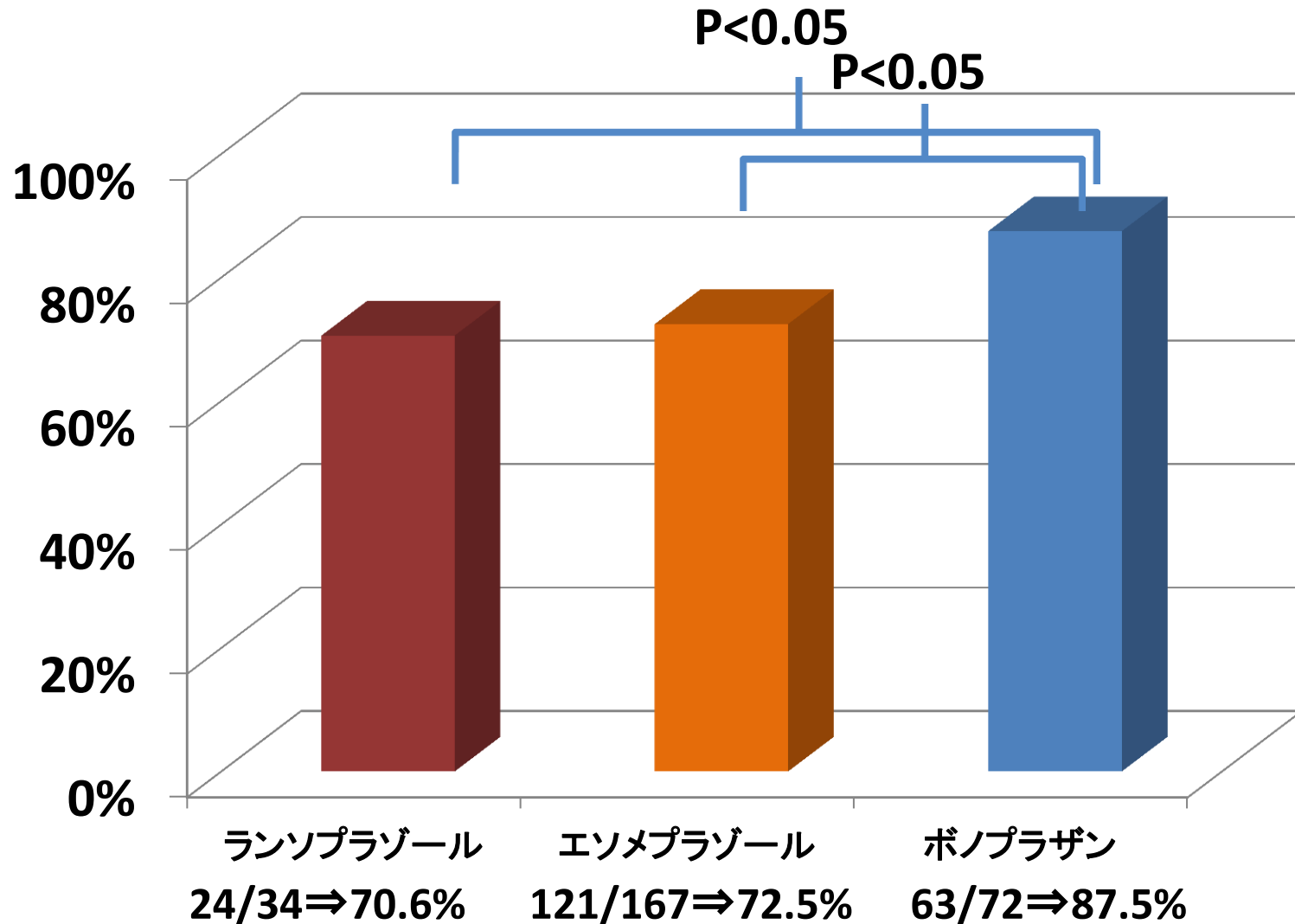
# 結果

## ボノプラザンでの1次除菌



# 結果

## 従来のPPIでのレジメとの除菌率 (PP解析) の比較

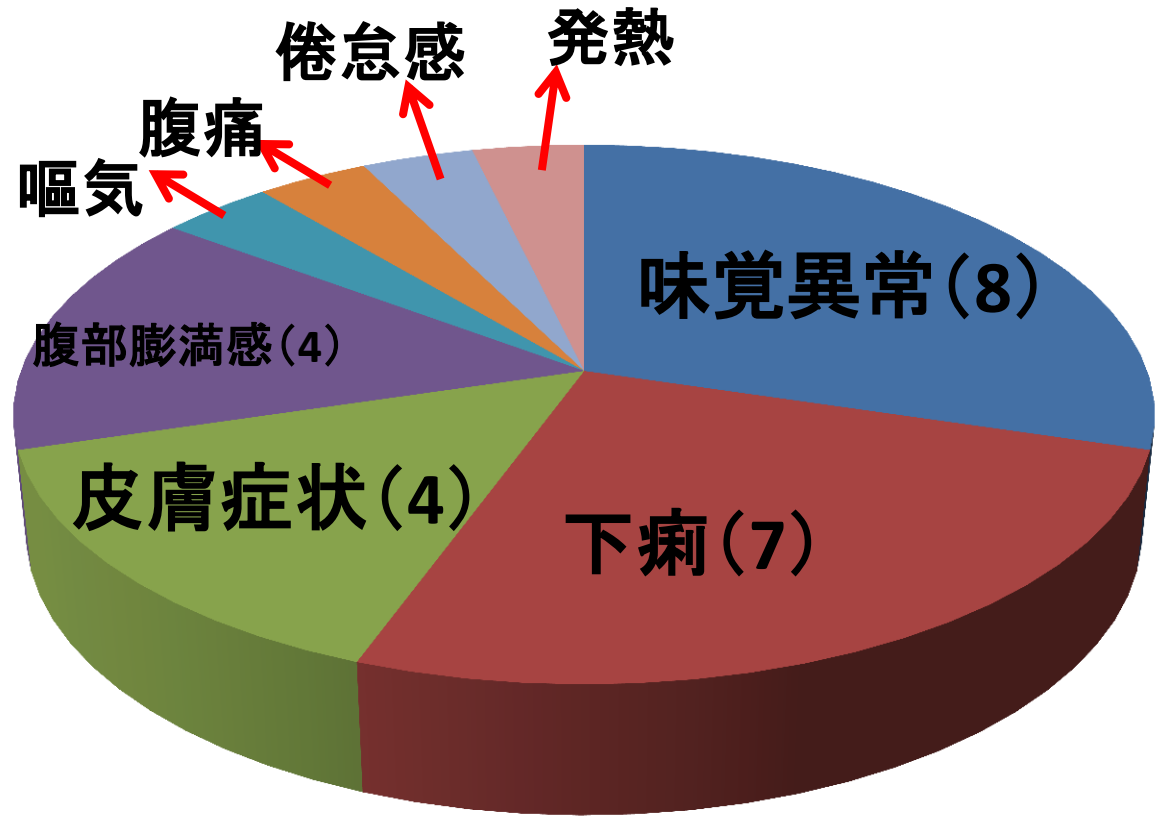




# 結果

## 有害事象

内容	人数 (重複あり)
味覚異常	8
下痢	7
皮膚症状	4
腹部膨満感	4
嘔気	1
腹痛	1
倦怠感	1
発熱	1



# 結果

## 有害事象

強い

やや強い

軽い

味覚異常	0	1	7
下痢	0	3	4
皮膚症状	1	1	2
腹部膨満感	0	3	1
嘔気	1	0	0
腹痛	0	1	0
倦怠感	0	1	0
発熱	1	0	0

# 従来の一次除菌治療の問題点と ボノプラザンの登場

- 従来のPPIを用いたヘリコバクター・ピロリ1次除菌治療はクラリスロマイシンの耐性化等で近年除菌率が低下している。
- ボノプラザンは従来のPPIと比較して酸分泌抑制の効果発現が早く、作用時間が長いため、胃内PHをより早く、長く上昇させることで、抗生剤の抗菌作用を向上させ、除菌率が向上すると考えられる。
- 有害事象に関しては味覚異常の頻度がやや多く、皮膚症状と発熱で2例が脱落したが、全般的には許容範囲内であった。

# 結 語

これからのヘリコバクター・ピロリ1次除菌治療はボノプラザンを用いたレジメが望ましいと思われた。